

ビジネスパートナーとともに

お取引先の声

ブラザーグループとの相互成長に向けて

CSR調達は世界的な潮流であり、その定着・浸透は、企業を取り巻く社会的リスクを回避し、新たな顧客獲得の機会拡大にもつながります。この主旨をご理解いただき、ブラザーグループとの信頼関係を基盤に相互成長を目指すお取引先から、多くの声が寄せられています。

お取引先から



環境配慮・安全製造を順守

INOAC Malaysia Sdn Bhd

欧 向心 様

これまでのCSR活動

イノアックマレーシアは、イノアックグループの一員として、グループの経営方針である、環境配慮・安全製造を順守します。ブラザーマレーシアがCSR活動を実施し、私たちがこの地でCSRプログラムを築き上げるように導いてくれていることに感謝しています。

イノアックの世界的成長戦略は、影響力が大きく、持続可能なプログラムを通して積極的に社会に貢献することに注力しています。こうした中、イノアックマレーシアがCSRを最重要分野のひとつとするための指針としてCSR方針があります。

以下の項目を、2014年度のCSR活動として計画しました。

- ・廃棄物削減のための品質管理の改善
- ・外国人労働者の宿泊所の生活環境の改善
- ・工場周辺の週ごとの清掃

CSR活動に関する今後の課題や取り組み

私たちは、マレーシアのジョホールバルで、従業員がボランティアとして社会活動に参加するようにします。折に触れ、現状取り組んでいる分野とは異なる分野についても検討し、CSR活動に追加していきます。

ビジネスパートナーとともに

お取引先の声

お取引先から



社会貢献ができ、お客様に安心していただける会社を

GENTLE ELECTRIC (SZ) CO., LTD.

張 家銘 様

これまでのCSR活動

ブラザーグループのCSR経営理念に基づいた活動に参加することができ、大変光栄に思います。CSR活動を理解することによって、弊社は呼びかけに応え、CSRに関する活動を積極的に展開しています。

これまでのCSRの取り組みとしては、パソコン・ネットワークにおけるウィルスバスターの導入、従業員の環境保全活動への参加の促進、職場の環境改善、省エネ、老人いたわり活動、廃棄物の分別があります。

CSR活動に関する今後の課題や取り組み

今後も全従業員を率い、CSR活動に継続して取り組んでいきます。社会的責任に対し、より多くの貢献をしたいと考えています。

従業員が、さまざまなボランティア活動(重大な災害が起きた時に義援金を募り、従業員の献血活動への参加を促進する)に参加するようにすることによって、社会貢献ができ、かつ、お客様に安心していただける会社を目指します。



CSR憲章を礎に活動を展開

山内精密電子(深圳)有限公司

船岡 和広 様

これまでのCSR活動

ヤマウチグループのCSR憲章を礎に、活動を展開中です。

ボランティア組織は、特殊児童学校の慰問、交通監視員活動をしています。

副資材の節約、再生、分別回収など、廃棄物リサイクル100%を目指しています。

ユニークな活動として、農園、食事の残飯を減らす活動などもしています。

CSR活動に関する今後の課題や取り組み

CSRに対する意識が高まれば、生産性の向上にもつながると確信しており、今後も社員の自主性と創造性が発揮できる個性を尊重する職場作りを目指します。

ビジネスパートナーとともに

お取引先の声

お取引先から



熱意ある愛電を

東莞愛電電子有限公司

塚本 年治 様

これまでのCSR活動

- ・総経理の日(2007年)
- ・従業員慰労、問題文化(2010年)
- ・新陽学院設立、ボランティア活動、1平米活動(2011年)
- ・完璧満点活動(2012年)
- ・挨拶活動、従業員PK活動(2013年)
- ・洗濯活動、短所トレーニング、精進料理、新人の正社員昇格祝宴(2014年)
- ・継続した取り組み: 正確管理、グループ合同結婚式、新陽仲間、バスケットボール大会、ダンス大会、文化大使
- ・幼稚園の子供が8名から300名超に増加

CSR活動に関する今後の課題や取り組み

2015年は、熱意ある愛電を作っていきます。

- ・愛電を盛り上げよう活動: 参加! 奉仕! 喜び! 喜びを伝えて、熱意の火を点します。
- ・手つなぎ活動: 挨拶し、気にかけてあい、良い雰囲気を作ります。
- ・スマイル90度活動: 微笑む愛電、みんなが楽しい
- ・サンシャイン愛電活動: 陽気な製造ライン・グループを作り、本音が言える勇気を持ち、プラスのパワーを広く伝えます。
- ・幸せな小家庭活動: 模範寮を作り、寮の改造・保守を行います。
- ・TCC無極限活動: 幸せな家庭文化を10のカテゴリーに分け、一連の取り組みを展開し、動力朝活動を二次部門へと広げます。